

薩摩狂句曆 三條風雲児著 から

遅し炊事コップ一杯はからで飲ん

大山 元帥

おかげなしでご飯を食べることを「からぎ飯しゅ食」というし、肴なしに焼酎を飲むことを「からぎ焼酎を飲ん」という。この句の「からで」は、「からぎ」と同じ意味。

「遅し炊事」は、夕食の支度が遅いということであろうが、晩酌の肴が間に合わないということであろう。だから、しごれを切らして、コップ一杯は肴なしで飲んでしまったというのである。

手術台瘦るつづいの頼いなさ

西原 未笑

大なり小なり、手術となると不安になるもの、まして大手術でもするといふことになると、なおさらのことであろう。局部麻酔にしろ、全身麻酔にしろ、手術が始まれば痛くも痒くも無いうちに終わってしまうわけだが、「手術がうまくいくだろうか」という不安や、「痛くはないかな」という恐怖心が、「痺るつづいの頼いなさ」にこめられているとみてよからう。

薩摩郷句誌 渋柿八二九号雜吟から

長谷 俊風

中元歳暮きちきちすつてまだ主任

(唱) 人は良かどん実力かそしこ

チラす見つ安しち思もどん遠え所

(唱) 免許返納でばつたいいかじ

彼氏んこちや父に言うなち緘口令  
物言わん機嫌の悪い婆ベ氣色悪し  
西ノ園 ひらり

伊地知 孝

江口 紫朗

メモい無か肴と焼酎を買た亭主

(唱) 帰い着てかあ揉めんな良かが

北村 虎王

帽子すば脱つ禿をみたなな名が分かつ

(唱) ひよかつ思め出た連鎖反応

有馬 涌声

其処け座れ爺もきん座つ幼児い説教

(唱) 士族の血筋じやちやんとせんか

ち

西 幸子

負けた方も祝儀を呉るそな良か相撲  
(唱) 小気味ん良技土俵を沸かせつ

諄で小言ち持つた団扇が震る始けつ  
(唱) 分つおつがち辛氣が煮えつ  
井上三ちゃん

## 郷句募集

◎11号

題吟「新米(しんめ)」

締切 令和5年10月4日(水)

◎12号

題吟「氣忙し(きぜわし)」

締切 令和5年11月6日(月)

◇選 者 樋口 一風

◇漢字のわからない時は、カナで書いてご応募ください。選者が適宜漢字を書いてください。

◇応募先 〒八九二一〇八四六

鹿児島市加治屋町三番一〇号

鹿児島市医師会「鹿児島市医報」編集係

TEL ○九九一二三六一三七三七

FAX ○九九一二三五一六〇九九

E-mail:ihou@city.kagoshima.med.or.jp

